

テーマ：表現「転がる・回る面白さ」

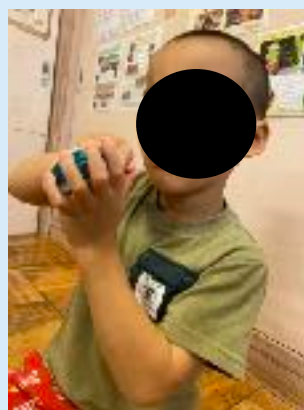
きっかけ

ビー玉転がしをクアドリアや積み木を使って室内で楽しむ姿が見られていました。年中・年長児は昨年引き続き大きなコースや複雑なコースを作っています。年少児も以上児クラスに移行して年上の子の様子を見て、興味を示しています。4月初めは自分たちで作ることは難しく、保育士や年上の友だちにコースを作ってもらっていたのですが、次第に自分たちでも作ろうと、クアドリアのパーツを繋げたり積み上げたりしていました。高さを変えても必ずビー玉が落ちてくるのが面白いようで、穴からビー玉が出てくると「おお！」と声をあげて楽しんでいました。



コマ回しに挑戦！！ 2025.4.23（水）

また、コマ回しも流行っていました。日々コマ回しに励み、木ごまや缶ごまを使い回す子もいれば、光るコマを回して綺麗に光る見え方を楽しむ子もいました。紐ごまに挑戦する子もいる中、紐を巻くことやコマを回すことに難しさを感じながらも諦めずに何度も挑戦する姿が印象的でした。毎日の苦戦と試行錯誤の中、初めて年長児が紐を巻けるようになり、自信を持って取り組みます。コマを回すことにも何度も挑戦し、コッ



を掴んで回し始めると、その子に刺激を受け、自然と人が集まり、コマ回しが大盛り上がりでした。自信がついた年長児は「集まりで発表したい」と話し、みんなの前で発表するために練習を重ねています。



水のピタゴラ

室内でピタゴラを楽しむ姿があったため、園庭での遊びも繋がっていくことを予想し、水のピタゴラができるように雨樋や発泡スチロールなどを準備しました。水のピタゴラでは、水を高い位置から流して“流れ”を楽しんでいました。水が流れているところに空のペットボトルを置くことで水と一緒に物が流れていくことにも気づき、何人かでペットボトルに水を入れて一気に流し、どうすればペットボトルが速く流れるかを考えていました。



水路作りの試行錯誤

2025.9.1 (月)



年長児が雨どいを使って水路作りを始めました。一人でせっせと始めていたのですが、水路が大きくなっていき、他の友だちも参加し始めました。発泡スチロールの箱に水を流すには、水の合流部分の高さが重要です。大人にはやり方が一目瞭然でも「こぼれてる！」



「あ〜!!」と苦戦していました。どうしたら良いかという解決法ではなく「ここから溢れちゃってるよ」「こっちはどう？」と保育士も話しながら試行錯誤していくと、水を流すところの高さを高くしたり、接続部分のパーツを変えたりして問題解決！見事、箱いっぱい水が溜まりました。水路作りもそうですが、どうやって水を運ぶか、何を使ったらいいいのかなど、出てきた課題を一緒に解決することも楽しんでいたように感じます。



この日は早速雨樋を用意して水路を作っていました。年長児、年中児、年少児が揃うことで互いにアイデアを出し合い、雨樋や発泡スチロールを組み合わせるなど工夫することを楽しんでいました。水路が完成するとスポンジでできたボール（水鉄砲の持ち手になっていた部分）を転がしてボールの流れを楽しんでいました。これまでは、水を流すことを楽しんでいたため、この経験から流すものに興味を示しても面白そうだと感じました！

このように普段からビー玉転がしを楽しむ中で、ピタゴラコースを作った際に、コースの上を走るビー玉の動きを楽しむ様子が見られていました。またコマが回る様子をじっくり見たり回して遊んだり、“動き”の面白さに興味を持ち、繰り返し夢中になる姿がありました。一方、園庭での水遊びを通して水のピタゴラを作り、水の流れや動き、その仕組みを試行錯誤しながら楽しむ姿も見られ、【“転がる”や“回る”動き】の面白さを感じ、更に探究してほしいと考えました。速さの違いが生まれる不思議さや、速度によって変化する面白さをじっくりと楽しみ、日常の中でも“なぜ？”と考え、新しい発見や学びとの出会いが生まれるきっかけになってほしいと思い、様々な素材を準備しました。

コッコロ・フィラーレ

2025.10.18

VELOCITA LABO

ヴェローチタ ラボ

今年のコッコロ・フィラーレでは、半歩先の遊びをと、「動き」をテーマに様々な角度から子どもたちの興味や感性に働きかけていきました。物や性質、重さによって転がるスピードが異なることや、回るという面白さに気づけるように、天秤や様々な大きさ・重さのボール、その物をじっくり観察できる虫眼鏡、回転台などを用意しました。ブースに分けて体験できるよう準備し、保育士だけではなく保護者の方にも協力をいただき、子どもたちの気づきや発見が翌週からの遊びへと広がり、より豊かな展開へと繋がり、「学びの芽」「興味の芽」が生まれていくことを願い、アプローチしていきました。

コロ研究室



ガチャガチャのボールよりもスーパーボールの方が速かった！

ガチャガチャのボールよりも木のボールの方が重いな～



違うボールを乗せて同じ重さにしたい！



フレール研究室



砂がキラキラしてる！

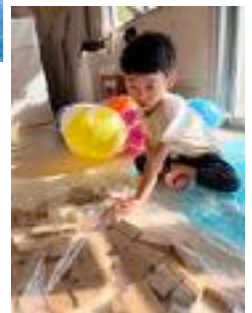
綿の上はボールが転がらない！



ウレタンスポンジの上は手で押すと転がる！



水がプニプニしてて気持ちいいな～



グール研究室



2色使うと違う色になったよ！



目が回る～！
綺麗な色だよ～！

水滴が動いて形が変わっちゃった！



(模様)を虫眼鏡で見ると紫に見えるね。



子どもたちは、素材や角度、方法によって変化する速さに触れて楽しんでいました。同じ形でも重さや質感が違うことで速さが変わることを発見したり、動きを目で見るだけでなく身体で感じたりしながら体験したくさんの楽しさや疑問、不思議さを感じていたようです。また、回転の力で模様が生まれ、水滴の動きの変化に感動を覚えていました。身の回りの“不思議”を実際に見て、触れて感じる中で生まれた探究心の広がりを感じます。今回ココロで体験したこと、感じたことを翌週からの保育に取り入れ、子どもたちがその後どう続きを楽しんでいくのか楽しみにしています。

感謝祭でのピタゴラの発表



感謝祭では子どもたちがこの1年で興味を持って取り組んできたことを保護者の前で発表します。年中児の男の子は、様々な素材を使ってピタゴラを1から作りました。高さを出すにはどうしたらいいのか考えたり、微調整をしたりする姿が印象的でした。完成すると表情も笑顔に変わり、達成感を感じられました。

〈振り返り〉

“動くもの”に対して子どもたちが興味を持ち始め、その興味がどう広がるか、またそこにどんな学びを探究してほしいかを保育士同士で話し合い、環境の準備をしてきました。そんなアプローチから子どもたちが試行錯誤をしたり、より回ることや速さ、物の性質によって変化が見られることを面白がったり探究したりする様子が見られました。また作るだけではなく年上の子が遊んでいる姿を見て、年下の子の遊びが繋がり、異年齢の関わりが生まれていることも感じられました。感謝祭で自信を持って発表する姿からは、保護者の方も子どもたちの成長を感じていたようです。

ココロで体験した経験をもとに身の回りのものへの“なぜ？”“どうして？”という探究心が生まれていたので、更に学びを深めていってほしいと思います。